

佳作

当たり前に感動

兵庫県 神戸市立福池小学校六年 山島 大空

ぼくは、この夏休みに石川県の能登半島で行われた日本スカウトジャンボリーに参加しました。日本スカウトジャンボリーとは国内外から約一万三千人のボーイスカウトが集まる大規模なキャンプです。キャンプ中には、たくさんのプログラムやイベントが行われました。夜に行われた大集会では、皇太子様や宇宙飛行士の野口総一さんのあいさつ、歌手のライブなどもあり、とてもにぎやかで楽しく過ごせました。他の都道府県から来たボーイスカウトとの交流などもあり、学校では体験できない思い出がたくさんできました。

しかし、楽しいことだけでなく、実際は六泊七日の過こくな野外生活でした。キャンプをした場所には、電気、ガス、水道が通っていません。まずご飯を食べるためには、リヤカーを引いて遠い場所まで

食材をもらいに行って、火は、まきを割って一から火を起こします。水はポリタンクを持って水場まで行かないと使うことができません。そして、自分たちで調理をしないとご飯を食べられません。家や学校で、ご飯を作ったことはあるけれど、野外で作ると思うようにいきませんでした。火の調節もできず、風が吹くと、火が消えることもあり、不便なことからでした。

電気がないので、暑いと思っても、エアコンやせん風機ですずむことができず飲み水がぬるくても冷やすことができませんでした。また夜になったら真っ暗で、ヘッドライトをたよりに生活をしなければいけません。そして、一日の活動を終えて疲れていても、冷たいシャワーしかないので温かい湯船に入ることができず、疲れがなかなか取れませんでした。七日間の野外生活を終えて家に帰ると、エアコンが付いていても快適に感じられませんでした。じゃ口からはお湯が出るし、電気はボタンを押すだけで付くし、ふ段は当たり前だったことにとっても感動しました。この感動は、一週間の野外生活を経験しないと分からなかったことです。ふ段当たり前に使っている電気、ガス、水道がこんなにありがたいものだ

と分かりました。

また、布団で、足を伸ばしてぐっすりねむれることや、くつろいでテレビを見ることや、座っていてもご飯が出てくることを当たり前だと思っていたけど、特別なことだと感じました。

今回の野外生活を体験して、当たり前前のが当たり前前ではないと気付きました。これから一日一日を大切に過ごしていきたいです。